

2007年5月18日

井筒屋とITとe - PORT

株式会社 井筒屋
情報システム部
ゼネラルマネージャー

畑 迫 晶 之

1

Today's Contents

- 井筒屋グループのご紹介
- 営業現場におけるIT利用
- 北九州e - PORTへの取り組み

2

井筒屋グループのご紹介

- 井筒屋
- 久留米井筒屋
- 宇部井筒屋
- 飯塚井筒屋
- 井筒屋外商サービス
- 井筒屋商事
- 井筒屋サービス
- 井筒屋ファッションサービス
- レストラン井筒屋
- 井筒屋友の会
- エビス
- エッグ
- 井筒屋総合保険
- 西日本リテールカレッジ

3

(株)井筒屋の概要

- 設立 昭和10年7月30日
- 開店 昭和11年10月6日
- 年間売上高 85,000百万円 (平成17年度)
- 資本金 10,532百万円
- 社員数 735名
- 本社 北九州市小倉北区船場町1番1号
- 主要な店舗 本店・黒崎店

4

井筒屋の歴史

年月	沿革
昭和10年7月	株式会社井筒屋百貨店を設立(資本金100万円)
昭和11年10月	井筒屋(現 本店)を開店
昭和34年11月	八幡店(現 黒崎店)を開店
昭和47年10月	本店増築完成
昭和48年7月	東京証券取引所第一部上場
昭和53年10月	中津店を開店
平成6年11月	ブックセンタークエストを開店
平成10年9月	本店新館を開設
平成12年7月	本店小倉リバーサイド・チャイナ(紫江 S)を開設
平成12年12月	中津店を閉店
平成13年10月	黒崎店を現在地に移転
平成14年3月	井筒屋アクセス-1を開店(旧黒崎店)
平成16年6月	本店小倉紫江 S を開設
平成19年3月	博多井筒屋を閉店
平成19年秋	博多リバーラインに新規店舗開店予定



グループ百貨店



小倉本店



黒崎店



博多店



久留米店



飯塚店



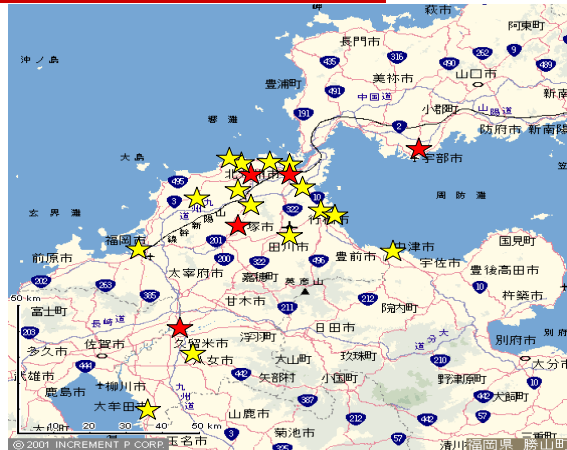
宇部店

主要なショップ

小倉駅店・新北九州空港店・メルクス本城店・高須ショップ・中間ショップ・直方ショップ・曾根ショップ・田川ショップ・苅田ショップ・行橋ショップ・筑後ショップ・大牟田ショップ・中津ショップ・若松ショップ・宗像ショップ

井筒屋グループ

★ 百貨店 ★ ショップ



小倉本店



- 昭和11年10月
- 昭和47年10月
- 平成10年9月
- 平成12年7月
- 平成16年6月

開店
増築完成
新館を開設
小倉リバーサイド・チャイナ「紫江 S」を開設
「紫江 S」を開設

- 売上高
- 売場面積

648億円(平成17年度)
51,467㎡

黒崎店

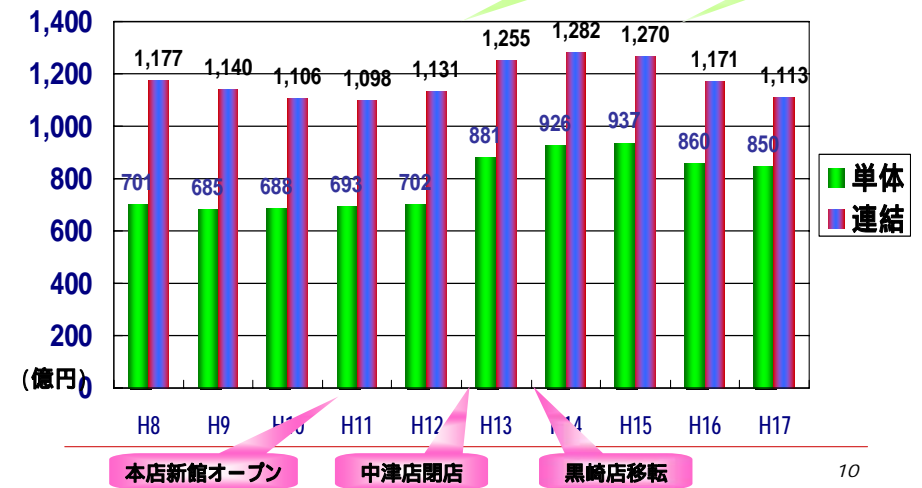


- 昭和34年11月 開店(店名:八幡店)
- 平成5年4月 八幡店から黒崎店に名称変更
- 平成13年9月 移転のため、旧店舗での営業終了
- 平成13年10月 現在地(黒崎そごう跡)へ移転
- 平成14年3月 旧店舗を井筒屋アネックス-1として開店

- 売上高 202億円(平成17年度)
- 売場面積 27,174㎡

9

年度毎の売上高推移



10

営業現場におけるIT利用

11

百貨店における従来のIT利用

□ 基幹業務合理化

人手をITに置き換えることでスピード化・省力化

E DIによる商品調達のリードタイム短縮

業務合理化から情報分析へ

情報分析

POS情報、自社クレジット情報から顧客分析・MD分析

12

インフラの変化

- 大型汎用機からサーバーへ
バッチ処理からリアルタイム処理へ
- 専用通信プロトコルからTCP/IPへ
一対一の通信から多対多へ
インターネットの利用
- 分散処理と集中処理
DBは分散しても処理は集中管理へ

13

これからのIT利用

- 新しいインターネットショッピング
Web2.0を意識した新しいサイトの模索
- 顧客サービス向上
RFID、新しい映像技術を利用した顧客サービス
- 社員福利厚生
仮想空間での社員サービス
- 能力開発
e-ラーニング、スキル管理

14

ITを意識しないIT

- ICチップの極小化
- 音声認識
- 画像認識
- 生体認証
- 映像技術

15

北九州e-portへの取り組み

16

時代の流れ

- 外的圧力
改正会社法、J - SOX、東証
- コアコンピタンスへの資本集中
経営資源の有効活用
- 地域への貢献

外的圧力

- 改正会社法及びJ - SOX法
いわゆる内部統制強化により適正な会社運営及びその実施を情報公開することが法的に義務付けられ、またその実施状態により企業価値を市場が判断する
- 株価も重要
TOB対策も株価が高ければやりやすい

コアコンピタンスへの資本集中

- 経営資源の有効活用
- 資源はお金だけではない
- 人材が会社にとっては重要な資源
- コンピュータシステムの運用は幅広い知識と経営センスが必要となる
- 当社にとって資源を集中すべきは店舗であり接客サービス
- よそでもできることはお願いする

地域への貢献

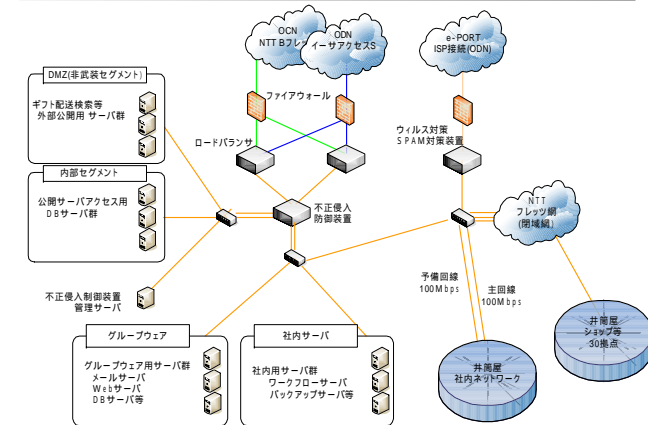
- 地域の発展があればこそ当社の成長が望める
- 地域におけるIT基盤の充実は地場業者にとっての新しいビジネスチャンス
- 地域の発展は行政にだけ任せではいけない
- 当社にとってもメリットがあることが重要

北九州e - PORTのサービス



北九州e - PORT利用概念図

井筒屋 e-PORTネットワーク接続 構成概要図 (2007年4月)



今後

- **取り組みの拡がり**
 - 地域企業による利用の拡大。
 - 都市圏からの利用拡大。
- **取り組みによる期待**
 - コンテンツの集中が人材・経済の集中を促進。
 - 資金と需要が北九州圏内で循環。
- **地域における人材育成**
 - 必要な人材は地元で育成。
 - 必要な技術は地元で開発。

